

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

ブレスト・アウェアネスの情報提供ツール開発に関する研究

研究分担者 植松 孝悦 静岡県立静岡がんセンター 乳腺画像診断科 部長

研究要旨

ブレスト・アウェアネスは「乳房を意識する生活習慣」であり、具体的には自分の乳房の状態を知り、乳房の変化に気を付け、変化に気付いたらすぐ医師に相談し、40歳になったら2年に1回乳がん検診を受けるという4つの習慣のことである。ブレスト・アウェアネスを啓発・促進することは今後の乳癌対策として期待されるが、現在のところ日本の一般女性に周知されているかは不明である。また、わが国の乳がん検診の受診率は低く、科学的根拠に基づく乳がん検診の認知度も懸念されている。そこで今回、ブレスト・アウェアネスと乳がん検診、そして家族性/遺伝性乳癌の認知度について、全国の20歳から69歳の一般女性に対してインターネットによるアンケート調査を行い1000名から有効回答を得た。回答者の5%がブレスト・アウェアネスを認知していた。科学的根拠に基づく乳がん検診方法がマンモグラフィであると正答した女性は31%であった。さらに乳がん検診の開始年齢が40歳からであると正答した女性は22%であった。回答者の71%が家族性/遺伝性乳癌を認知していた。39歳以下と40歳以上で各項目について比較したところ、有意差はなかったが39歳以下の女性でブレスト・アウェアネスの認知度が高く、40歳以上の女性が乳がん検診開始年齢を有意に正答し、検診方法としてマンモグラフィを正答する傾向にあった。今回のアンケート調査結果からブレスト・アウェアネスは十分に周知されておらず、科学的根拠に基づく乳がん検診の認知度も不十分であることが明らかとなった。ブレスト・アウェアネスの啓発・促進を行うとともに科学的根拠に基づく乳がん検診の適切な情報提供の継続が必要である。

A. 研究目的

ブレスト・アウェアネスと科学的根拠のある乳がん検診、家族性/遺伝性乳癌の認知度について全国一般女性にアンケート調査を実施する。

B. 研究方法

全国の20～69歳の一般女性1,000名に対し、2020年9月3日～7日にインターネットによるアンケート調査を行った。アンケートの配布・回収・一次集計は楽天インサイト株式会社に依頼した。

（倫理面への配慮）

福井県済生会病院臨床研究審査委員会より承認を得た（審査番号2020-025）

C. 研究結果

ブレスト・アウェアネスの認知度は5%であった。39歳以下と40歳以上の女性でブレスト・アウェアネスの認知度について比較したところ、39歳以下女性のその認知度は7%（33人/474人）で40歳以上女性のその認知度4%（22人/526人）と僅かに有意差はなかったが、39歳以下の女性でブレスト・アウェアネスの認知度が高い傾向にあった（ $p=0.054$ ）。科学的根拠に基づく乳がん検診方法がマンモグラフィであると正答した女性は31%であった。39歳以下と40歳以上の女性で比較したところ、39歳以下女性の

正答率は28%（132人/474人）で40歳以上女性の正答率33%（174人/526人）と有意差はなかったが40歳以上の女性がマンモグラフィと正答する傾向にあった（ $p=0.073$ ）。乳がん検診の開始年齢が40歳からであると正答した女性は22%であった。39歳以下と40歳以上の女性で比較したところ、39歳以下女性の正答率は19%（88人/474人）で40歳以上女性の正答率26%（135人/526人）と40歳以上の女性が乳がん検診開始年齢を有意に正答した（ $p=0.007$ ）。家族性/遺伝性乳癌の認知度は71%であった。39歳以下と40歳以上の女性で比較したところ、39歳以下女性のその認知度は70%（332人/474人）で40歳以上女性のその認知度71%（375人/526人）と家族性/遺伝性乳癌の認知度に全く有意差はなかった（ $p=0.664$ ）。ピンクリボン運動の認知度は87%であった。39歳以下と40歳以上の女性で比較したところ、39歳以下女性のその認知度は84%（398人/474人）で40歳以上女性のその認知度90%（472人/526人）と40歳以上の女性にピンクリボン運動の認知度が有意に高かった（ $p=0.007$ ）。

D. 考察

今回の全国一般女性1000人の全国アンケート調査の結果、日本におけるブレストアウェアネスの認知度は5%と著しく低いことが明らかになった。予備調査として行われた小規模な乳がん検診専門家医師と乳がん検診受診者を対象としたブレスト・アウェアネスの認知度（54%と11%）よりも非常に低く、一般女性に対するブレスト・アウェアネスに関する啓発の必要性が確認された。一般女性に対するブレス

ト・アウェアネスの啓発の重要性は、厚生労働行政推進調査事業費補助金「乳がん検診の適切な情報提供に関する研究」でも報告されており、この研究に関するホームページにてわかりやすく、丁寧にブレスト・アウェアネスの情報提供を行っている。今後は、乳がん検診関連学会や団体などと協同して、ブレスト・アウェアネスのさらなる積極的な情報提供が一般女性に行われることが望まれる。

僅かに有意差はなかったが、39歳以下の女性でブレスト・アウェアネスの認知度が高い傾向がある理由の一つとして、若年層はインターネットやソーシャル・ネットワーキング・サービスに適応が早く、それらを介してブレスト・アウェアネスを認知する機会が多いからと考えられた。わが国の対策型乳がん検診の対象が40歳以上の女性であることに起因すると考えられるが、39歳以下の女性に対してもブレスト・アウェアネスの啓発を通して、乳がん検診の正しい情報提供が重要と思われる。

E. 結論

ブレスト・アウェアネスは乳がん検診と並ぶもう一つの乳癌医療政策の柱として期待されるが、その周知は十分と言えない。科学的根拠に基づく乳がん検診の認知度も不十分である。今後もブレスト・アウェアネスの啓発・促進を行うとともに科学的根拠に基づく乳がん検診の適切な情報提供の継続が必要である。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

①ブレスト・アウェアネス

Author：植松 孝悦(静岡県立静岡がんセンター 乳腺画像診断科)

Source：乳癌の臨床 (0911-2251)35巻4号 Page273-278(2020.08)

②ブレスト・アウェアネス 乳房の健康教育

Author：植松 孝悦(静岡県立静岡がんセンター 乳腺画像診断科)ら

Source：日本乳癌検診学会誌 (0918-0729)29巻1号 Page27-33(2020.03)

③植松孝悦：高濃度乳房による検診マンモグラフィ偽陰性問題の正しい対応はブレスト・アウェアネスの啓発です。日本乳癌検診学会誌. 30:29-33, 2021

2. 学会発表

①植松孝悦 “Breast Imaging: State of the Art in AOCR” 「Let us work towards establishing a next-generation breast cancer screening program in Japan」AOCR2021 (第80回日本医学放射線学会総会 同時開催) 2021/4/15

②植松孝悦 次世代乳癌検診検討委員会企画：乳癌リスクに基づく乳がん検診 第30回日本乳癌検診学会学術総会 2020/11/23

③植松孝悦 検診マンモグラフィ偽陰性問題に対する正しい対応はブレスト・アウェアネスの啓発です 第30回日本乳癌検診学会学術総会 2020/11/22

④植松孝悦 Let's Talk about Next-Generation Breast Cancer Screening Programs: How Should We Do? What Should We Use? 第106回北米放射線学会 (RSNA 2020) バーチャル開催 2020/11/29~12/5

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

特記なし

1. 特許取得

特記なし

2. 実用新案登録

特記なし

3. その他

特記なし